

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこトピア浄法寺		
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	平成 23年 12月 10日	評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391300019&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391300019&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成23年12月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行の緩和を目的として、今年度より竹内式認知症ケアを取り入れている。食事、排泄、運動、水分と、ご利用者自身のケアを見つめ直し、取り組んでいる。生活面では、ご利用者自身の出来る事の実現を念頭に、ご利用者、職員と一緒に掃除、行事、畑の作業等、可能な限り、自宅での生活歴を尊重して日常生活を送っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二戸市浄法寺町の西北にある(旧)太田小学校校舎を活用した施設であり、地理的好条件と共に大きな小学校校舎が広くゆったりした空間を醸し出しており地域に馴染みやすい条件が整っている環境にある。今年度の業務改善目標として①接遇改善 ②感染症防止対策 ③環境改善の三項目を掲げ改善に取り組んでいる。特に接遇改善については、接遇チェック票により会話や姿勢等の22項目について「できている」かどうかを自己評価する改善運動を取り入れている。また、介護度軽減に向けて機能回復等の生活訓練や水分補給による体調調整等老化の進行緩和にも努めている。また、防災訓練には多くの地区消防団員の参加があり地域の支援関係も深まってきており、今後も更なる協力・連携関係が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、グループ理念を唱和して、意識をつけて理念を念頭に、業務に従事している。	「安全で楽しく、快適な生活をお届けします」など4項目の独自の理念を開所当初からつくりあげ、ホーム内の廊下など数箇所に掲示し、管理者と職員が共有し実践に向け取り組んでいる。	理念は、サービスの拠り所として大切なもので、管理者と職員が共有して実践する事に意義があり、共有の意識付け、利用者ニーズの変化など話し合ってみるなど、今後の取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物の同行、地域行事の参加を行い、地域住民との関わりをもっている。他に行事の際、踊り等で施設へ招待し、交流をしている。	市などが主催するゲートボール大会にグラウンドを貸したり、中学校の体験学習会に協力したり、渉外活動では、ホームを理解してもらうために地元商店会にティッシュを配るなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事、買い物と地域へと出向き、地域住民との関わりをもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で構成員より意見、または質問を頂き、サービスの向上に繋げている。	会議では、行事や入居状況などを報告し、ホームを知って貰うために、民生委員の施設見学を提案、多数の人が来訪され理解を得られるなど業務運営に活かすよう努めている。	運営推進会議はホーム運営の重要な要であり、住民交流、サービス向上など課題を積極的に提案することが大切である。今後とも工夫しながら取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	渉外活動を通じ、施設の紹介、施設状況を伝え交流を図っている。	2ヶ月に1回程度訪問し、利用者の生活や健康状態を報告し情報交換を行っており、断水、敷地内整地の工事などでも相談できる関係にあり協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを通じ、理解に繋げている。利用者の訴えに合わせ、自己実現に繋げる支援を行っている。	現時点では対象となる利用者はいないが、身体拘束のマニュアルをもとに管理者・職員は研修を実施し身体拘束をしないケアについて全職員が理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを用いての勉強会実施により、理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修会に参加し、職員へ周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、パンフレット、契約内容を説明し、理解を得ている。説明後、質問、入所後の問い合わせについても説明、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートをとり、施設への見解を頂戴して、施設サービスの向上に繋げている。	利用者の状況をもっと知らせてほしい、転倒等に注意して欲しい等の要望や職員の目の行き届かない所をアンケートから教えていただき、その都度注意し合い、或いは改善しサービスの向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じ、意見交換の場をもっている。改善点についても話し合い、業務の見直しも図っている。	職員会議で、早番職員の業務内容の変更・調整の意見等が出されるなど職員の意見提案を取り入れ、働きやすい職場となるように留意しながら運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表、出勤簿、介護日誌をもとに職員の配置確認をしている。日常業務を通じて改善点、入居者状況を把握して業務改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内外研修に参加して、現場に周知し、施設サービスの向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内でリスクマネジメント、感染研修に参加し、現場に取り入れて施設サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に希望について面談を通じ把握し対応している。入所時、不安感の緩和の為、職員が間に入り、入居者同士の関係構築を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用時、ご家族より希望されるサービス内容を記録し、ケアプランに反映するようにしている。他、広報、電話を通じ状況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請があった際、グループホームの目的を説明している。相違があった場合、デイサービス、小規模多機能と説明して、選択できるよう伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の可能な能力を把握したうえで、共同で行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ利用者状況を連絡したり、家庭生活状況を伺い、情報をもとに支援に繋げている。他に、変化があった際は内容を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での連絡や手紙でのやりとり。行事やドライブで馴染みの場所を走り、関係性を保つよう働きかけている。	家族の協力を得てお墓参り、入居前から利用している理美容や温泉に行ったり、職員と一緒に買い物など、また自宅周辺をドライブしたり、思い出の場所に行ったりして、馴染み関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士コミュニケーションを図れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後、ご家族からの連絡に対して、説明し、その都度対応している。施設での状況を伝え、次のサービス活用に役立っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談、入所の際に本人様の訴え、生活歴をもとにしたい事を職員と一緒に実現できるよう働きかけている。	入居時の生活歴をもとに、支援の中で気をついたことを連絡帳に記録したり、帰宅願望が強く対応が困難な場合は家族の協力を得ながら、思いを把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に合わせ、草取り、日常作業と個々に合わせて対応、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を用いて個々の生活状況について記録をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに支援を行っている。定期的にケアカンファレンスを行い、現状に合わせた介護支援を行っている。	日ごろの会話や行動などで気をついたことや本人の思いを連絡帳に記録し、ケアカンファレンスで検討し作成している。介護計画は、毎月評価し3ヶ月ごとに全利用者を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者変化があった際、介護記録、連絡帳に記載し、申し送りで伝達している。ケースカンファレンスをし、その時に合わせた対応を検討して実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームサービスのみならず、併設事業所との合同行事で交流を深め、多人数でより楽しめる機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の同行、散髪での地域資源を活用して、楽しみに対しての幅をもたせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、協力医療機関に通院希望の際は紹介状を用意して頂き通院対応している。協力病院には夜間急変時の助言を得て対応する体制となっている。	希望するかかりつけ医となっているが、入居時に相談して変更する場合もある。町内での受診は職員が、町外は家族が同行し受診結果の情報は相互で把握するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護記録をとり、利用者の変化を観察している。体調不変があった際、看護師と相談し、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院発生時、入院前とご家族、病院関係との連携を図り情報交換や方向性を決めて対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を契約時に結び、契約に沿った対応をしている。	健康管理や身体的衰えには重点的に配慮しているが、自立歩行ができなくなった場合や痰の吸引等の医療行為が必要となった場合には他の医療機関の利用を勧めている。このことについては、利用契約時に十分説明し了解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習で学んだ知識を得て対応に役立っている。急変時の対応、応援体制を周知して、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を通じて、地域消防団員との連絡体制、協力体制を築いている。	年二回避難訓練を実施。地区消防団員35名の協力で訓練を実施している。スプリンクラーの設備や消火栓の配置など積極的に取り組んでおり、職員も安全に避難できるよう身につけている。	災害時への対策は、設備の充実はもちろんであるが、地域の協力体制も大切である。今回のような地区消防団員の協力体制は心強く、今後も継続されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル、接遇チェック表をもとに、入居者への関わりの留意点を踏まえて対応している。	尊厳をまもることを理念に掲げるとともに、職員は接遇チェック票で挨拶、身だしなみ、会話等の22項目について、「できている」かどうかの評価を行ない、人格の尊重に向けた接遇の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動に制限を設けず、自己決定を第一に支援している。散歩、草取りの要望がある時は、職員と動向して作業している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の時間を大切にしてお対応している。散歩、買い物の同行、自販機での飲み物購入と個人の行動に合わせ、生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択をしていただくよう支援している。洗面所に鏡を設置しており、整容しやすい環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を利用者の意見も取り入れ、献立を作成している。食事の配膳、準備と利用者と一緒に、準備を含めた食事の楽しみをもって頂くよう支援している。	食前に口腔体操を取り入れ、調理では配膳やテーブル拭きなど力を発揮できる場面をつくり、職員も一緒に食卓を囲み、季節には彼岸団子やクリスマスケーキなどを作り、楽しむよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、排泄チェック表を記録し、状態把握に努めている。入居者個々に合わせ、食べやすい大きさにして、食事提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	業務マニュアルで口腔ケアの時間を設け、個々に対応して、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、排泄パターンを理解して、誘導または声かけをし、失敗の減少に繋げるよう努めている。	個別に排泄パターンのチェック表を作成し、落ち着きのない時、おやつや食事の前後に誘導し、声かけにも十分な配慮をしながら、自立に向けた取り組みに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて排便経過状況を把握し、便秘の方に対し、下剤の服用で対応している。他に水分摂取の促し、食物繊維の食品を提供して排便しやすい環境をつくるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを行い、利用者のタイミングに合わせて、入浴していただいている。入浴の意思が低い時は、時間を空けての声かけや、入浴を見送り無理をしないよう配慮している。	希望により、いつでも入浴可能で、気の合った者同士で入浴する場合もある。着衣・着脱の介助では羞恥心に配慮し、拒む利用者には声かけやその人に合わせて工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間を設けず、個々の入床時間に合わせ見守りを行っている。日中と異なり、周りに人が少ない時は、職員が寄り添い、安心していただく環境をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時、服薬状況を確認して把握している。他に通院記録、連絡帳に記載し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常では洗濯たたみ、掃除等、できる事を把握して生活の張りをもつよう支援している。他、行事やドライブで外出し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の行動に制限を設けず、やりたい事を重視して見守り、対応している。	天気のよい日は、ホーム前のグランド周辺を散歩したり、草取りをしたりして自由に活動している。食材の買い物、季節の山菜取りや栗拾い、利用者の希望で天台寺のアジサイロードや紅葉見などドライブに出掛ける等外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常では施設内の自販機を活用し、飲み物の購入の機会を設けている。買い物同行した際、金銭を持ち、買い物の機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、ご家族への電話をしたり、手紙のやり取りをして交流している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大型テレビ、ソファを設置し利用者が共有して過ごせるスペースを用意している。	小学校の校舎利用のため天井が高く廊下も広々としており、壁や床面は明るく演出した配色でゆったり感がある空間である。居間兼食堂はテーブル椅子のフローリングの他に広い座敷もあり、壁面には季節行事の掲示など工夫を凝らしており心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、イス、机を用意して皆で共用できるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家庭で使用していた馴染みの物を居室におけるよう説明している。馴染みの物を用意しておちつ	広い居室には、タンス、ベッド、ソファ、FF式ストーブ、小物入れのキャビネットが備え付けになっている。利用者は人形や家族の写真などを持参し家族と一緒に配置や飾り付けを行ない、楽しく暮せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時の手すり、バリアフリーとして、自立した生活を送れるよう環境を整えている。		